



SGH News Letter No. 5

平成 29年 3月 2日 発行 愛媛県立松山東高等学校



目次

- ◆はじめに
- ◆海外FW 報告会の実施報告
- ◆海外FW 実施報告
- ◆2016年度活動実績（海外交流等）

はじめに

SGH 1 期生が卒業しました。彼らとともに歩んできた本校の SGH 事業は、全国的にも高い評価を受けることができました。また、課題研究の論文などを利用する入試に挑戦した生徒たちは素晴らしい結果を残し、夢に向かって大きく飛躍しようとしています。課題研究・論文作成・成果発表等、その時は大変だったことも多々ありますが、それらをやりきった成果は確実に出ています。東高生が歩むべき王道に SGH という道を見事に加えた 350 人に敬意を表するとともに、今後の人生に幸あらんことを心より祈ります。

海外フィールドワーク報告会 の実施報告

日時：平成 28年 9月 1日（木） 14：00～16：00

会場：松山市立 子規記念博物館 4階講堂

内容：14:00～14:05 校長挨拶

14:10～14:35 台湾コース発表・質疑応答

14:35～15:00 フィリピンコース発表・質疑応答

15:10～15:30 ビリネ留学 JAPAN 日本代表メンバー参加者（オーストラリア）発表・質疑応答

15:30～15:40 ビリネ留学 JAPAN 日本代表メンバー参加者（ベルギー）発表・質疑応答

16:40～15:55 日本の次世代リーダー養成塾参加者発表・質疑応答

15:55～16:00 指導講演

海外フィールドワーク 実施報告

2学期以降に実施した海外FWの感想や様子をまとめました。



行先	日程	行程	生徒感想（一部抜粋）	
ウガンダ	10/29	羽田空港→ドーハ空港	<p>・私はウガンダフィールドワークを通して、日本にいるときに持っていたアフリカやウガンダへの偏見を払拭し、人との繋がり大切さを強く感じた。また、日本のウガンダでの活動を知り、強い関心を持った。アフリカといえば発展途上国の国が多くて少し危険であるというイメージをついつい持ってしまっていた。もちろん、安全とは言い切れなかったが、私が出会ったウガンダのみなさんは親切で優しい人ばかりだった。話す言葉や見た目が違っていても、心は私たちと少しも変わらない。もっと話していたかったし、文化の違いを感じたかった。私は将来、青年海外協力隊がボランティアとして、何らかの形で発展途上国の発展に関わりたいと考えている。今回の研修でその思いはさらに強くなり、具体的な目標も定まってきた。近い将来に向けてしっかりと準備して、またアフリカに帰ってきたいと思った。ウガンダという国を知ってもらい、アフリカが素晴らしいところだと伝えたい。</p> <p>・私は、今回のフィールドワークで、英語は使うものだというのを、強く実感しました。始めは、私は英語に自信がなく、もごもごと話していました。すると、相手にされなかったり、首を振られたり、冷たい対応を受けました。それではだめだと思い、聞き直して下手な英語でもはっきりと話すようにしました。そうすると、こちらの必死さが伝わったのか、相手も聞き取ろうと努力をしてくれました。行って、話して、体験して、身にしみて感じたことです。</p> <p>・初めて海外に足を踏み入れたのがウガンダでよかったと思えるような6日間でした。日本とは全く違う風景や言葉に最初は不安もありましたが、日数を重ねていくうちに私の中にあつたアフリカのイメージががらりと変えられました。また、当たり前でしてくるご飯や毎日洗濯してきれいな服をきていることなど、自分が今までどれだけ恵まれた生活をしてきたのか改めて実感しました。JICA 事務所の方々や青年海外協力隊の方々との対面で印象に残ったのは、活動は自己満足でいいとおっしゃっていたことです。最大限の自己満足を得るくらいの気持ちで、という考えにとっても納得させられました。私も何事に対してもそういう心持ちで取り組んでいきたいです。</p>	
	10/30	→エンテベ空港→市内へ		
	10/31	JICA、国立作物資源研究所見学		
	11/1	円借款プロジェクトナイル架橋建設現場見学		
	11/2	「あしながウガンダ」（エイズ遺児支援のNGO）見学・交流		
	11/3	青年海外協力隊（理科教育隊員の活動）見学・交流		
	11/4	赤道・カンパラ市内見学		
	11/5	野生生物教育センター見学 エンテベ空港→ドーハ空港		
	11/6	→羽田空港		
	11/7	→松山空港		
				
				

ドイツ	11/9	松山空港→羽田空港→フランクフルト空港→フライブルク市	<p>・日本人とドイツ人の環境に対する国民意識の差が印象に残った。ドイツやフライブルクでは国や市と市民が一体となって環境問題に熱心に取り組んでいるのを実感できた。Vauban 地区ではほとんどの家にソーラーパネルが設置されている光景や屋根だけでなく壁にもソーラーパネルが設置されている光景に驚いた。帰国して登下校中に住宅地の屋根や街中のビルの屋上を見ていたがソーラーパネルを設置しているところは非常に少なかった。ドイツの研究所が発表した各国の地球温暖化対策を評価したランキングで日本は 58 国中 56 位であった。この結果を見て少しの驚きと同時に、結果に同感できたと思う。フィールドワークを通じて自分の中で環境に対しての考え方や見方が変わったと思う。これからの普通の生活でも環境を意識して生活をしていきたいと思う。</p> <p>・松山市は姉妹都市フライブルクのトラムの考え方を市内電車を使い、ごみの分別に力をいれていますが、トラムのバスとの連携や公共交通機関のネットワークの広さ、ペットボトルのリサイクルでお金が戻ってくるシステムは松山にはないので、実現できれば松山も環境都市として前進できると思います。街をあげての環境政策への取り組みに住民がついて行っていたので、環境への姿勢も変えていくべきだと思いました。</p>
	11/10	環境施策見学（森の家・IJSF-ツヨ） 現地学校訪問	
	11/11	市役所訪問・市内および環境施策特別地区ボーバン区画の見学等	
	11/12	市内見学（レンタル自転車・歴史博物館）	
	11/13	フライブルク市→フランクフルト	
	11/14	空港→羽田空港→松山空港	



2016年度 海外での活動（留学・研修）実績

本年度も多くの生徒が海外でのフィールドワークや留学を経験することができました。

内容	訪問先	期間	学年	人数
修学旅行	ロサンゼルス	2016/5/10～2016/5/15	2	99
高校生の留学促進事業（短期派遣）プログラム	ハワイ	2016/7/21～2016/8/5	1・2	24
トビタテ!留学 JAPAN	オーストラリア・ヌーサ	2016/7/23～2016/8/7	1	1
	ペルー・ウルバンバ	2016/7/16～2016/8/8	2	1
	アメリカ・ウエストランド	2016/8/11～2017/7/10	2	1
	イギリス・トットネス	2016/7/13～2016/8/8	3	1
海外フィールドワーク	台湾	2016/8/1～2016/8/5	1	7
	フィリピン	2016/8/8～2016/8/12	1	8
	ウガンダ	2016/10/29～2016/11/7	2	8
	ドイツ	2016/11/9～2016/11/14	2	4
海外留学	フランス	2016/8/7～2017/6/20	1	1
	アメリカ・ワシントン州	2016/7/26～2017/6/19	3	1
	アメリカ・オクラホマ州	2016/8/20～2017/7/20	2	1
	モザンビーク	2016/7/29～2016/8/9	2	1
	アメリカ	2016/8/8～2016/8/22	1	1
	カナダ	2016/7/29～2016/8/16	2	1
	シンガポール	2016/8/11～2016/8/15	1	1
	オーストラリア	2016/8/6～2016/8/21	1	1

延べ162人

国内での活動実績

<留学生の受入> 1人（タイ）

<各種大会への参加及び外国人との交流> 延べ 254人

- Study Abroad Fair
 - HAIKU MASTERS トークセッション in 松山
 - 愛媛県高校生国際交流促進事業 俳句体験・見送会
 - SGH 甲子園
 - 平成 28 年度四国高等学校国際教育生徒研究発表大会
 - EASE2016 東京国際会議
 - JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト
 - 第 13 回日本の次世代リーダー養成塾
 - えひめ高校生次世代人材育成塾
 - 四国 SGH 高校生会議
- その他、SGH 部の活動やスピーチコンテスト等

SGH1 期生の進路状況（課題研究論文等、SGH 事業での成果物を利用した入試の結果 2017.2.10 現在）

- 大阪大学 医一医 1人
- 愛媛大学 医一医 3人
- 名古屋大学 経済一経済経営 1人
- 九州大学 法 1人
- 広島大学 総合科学 1人
- 広島大学 教育 1人
- 岡山大学 教育 1人
- 関西学院大学 3人